

# 歌田 眞介(名誉教授)

---

## 『油絵を解剖する』

油画科には、十五世紀以降のヨーロッパの油画技術情報があるに違いない、と考えていたのが誤解であった。私の入学当時何も無かった。卒業後、絵画組成研究室(現、油画技法・材料研)に助手(非)としてかかわっていた頃、先生方の油画を修復する機会があった。乾燥剤の使用過多、溶き油に揮発性油しか用いないなど、油画材料の性能の限界を越えた使い方をしていることがわかった。

その頃、高橋由一展(神奈川県立近代美術館 昭和39年)があり、数点の洗浄を研究室の仲間と実施した。由一作品に技法的欠陥は無かった。時代が降るにつれて技術が低下したのは何故か。明治初期、特に由一の技法はどんなものだったか。先進国の文化受入にあたり先輩達の試行錯誤、すなわち、何を入れ何を排除したか等々が研究テーマとなった。

本書は、幕末以来約130年の油画移入史のうち、技法や材料の扱い方を検討してその問題点を明らかにしたいと願って書いた。

(2002年11月 教官アーカイヴ展に寄せて)